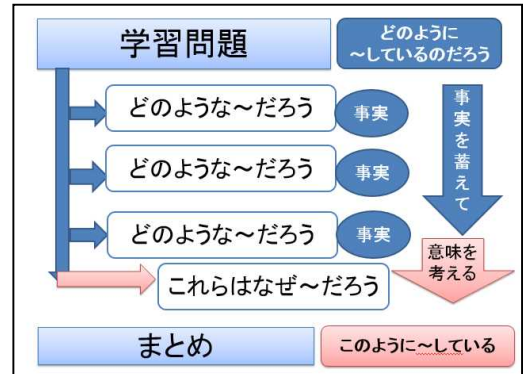


1 小学校社会科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 単元の「学習問題」と毎時間の「学習課題」の構造化

- ① 大きな（単元を貫く）学習問題を解決するために本時の学習課題を解決していくような仕掛けを作る必要がある。
- ② 社会科の問題解決のためには、単元の「学習問題」と毎時間の「学習課題」を単元全体で構造化することにより確かな理解につなげていくことができる。



(2) 社会科におけるアクティブラーニング～「協働的な学習」の重視～

- ① 社会科における「アクティブラーニング」とは、全く新しい概念ではなく、社会科が今までも大切にしてきた、主体的・協働的に学ぶ問題解決的な学習を充実させていくことと捉えてよい。
- ② 協働的な学習とは、話し合う学習がイメージされがちだが、学習過程において様々な場面で子供が主体的に学習に関わり、問題を解決していく学習活動すべてだと言える。
(社会科における「協働的な学び」の例)

- ・ 「気付きをつなぎあう」
社会的事象を見て、事実は何であるか、どんな様子なのかをつなぎ合わせる。
- ・ 「予想を磨き合う」
知っていることや見たことなどをもとにして、自分なりの予想を立て、グループや学級全体で明確にしていく。
- ・ 「学習計画を相談する」
予想に基づいて、確かめる資料や方法、観点などを子供と一緒に計画する。
- ・ 「社会的事象の意味を話し合う」
ペアやグループ、学級全体の話し合いを通して、自分の考えや集団の考えを発展させる。
- ・ 「学習のまとめをする」
文章や発表などにまとめたり、分かったことをもとに話し合ったりする活動をする。

2 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果から

(1) 調査結果のポイント

- ① 目的や意図に応じて相手の話の内容を聞き取ることや、問われたことに対して情報を正確に取り出すこと等については、相当数の児童ができています。
- ② 目的に応じて、文章を要約するなど課題解決に向けて主体的に文章を読むことや、ポスター・リーフレットなど文章の種類や特徴に応じて効果的に文章を書くこと等については、課題があると考えられる。

(2) 指導上の改善点

- ① 情報を基にして社会的事象の意味を考え表現できるようにする指導の充実
 - ・ 情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特徴、働き、役割、因果関係、条件などを考え表現できるようにする指導が重要である。
 - ・ 調べたこと、分かったことや考えたことを根拠として示しながら説明できるようにする指導が引き続き大切である。また、学習や用語・語句を活用して、社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明できるようにしていくことも重要である。

小学校 社会

- ② 基礎的な知識や技能を確実に身に付けるようにする指導の充実
- ・ 社会的事象に関する基礎的な知識については、授業の中で繰り返し指導したり、用語・語句の意味に留意して指導したりして、確実に身に付けるようにする指導が重要である。
(例) □第3学年及び4学年「47都道府県の名称と位置」
□5学年「世界の主な国の名称と位置、我が国の位置と領土」
 - ・ 資料から情報を読み取る技能については、資料に応じた読み取り方や複数の資料を関連付けた読み取り方を指導して、社会的事象に関する情報を的確に読み取ることができるようにしていくことが重要である。
(例) □グラフの種類に応じた読み取り方
□地図の読み取り方
□複数の資料や地図とグラフなど種類の異なる資料を関連付けた読み取り方
 - ・ 情報を効果的に活用する技能については、必要な資料を選んだり吟味したりできるようにする指導が重要である。また、情報を整理し、目的を明確にして発信することについても指導することが必要である。
- ③ 問題解決の見通しを持ったり学習したことを振り返ったりする指導の充実
- ・ 社会的事象から学習問題を見だし、その解決の見通しを持つようにする指導が引き続き必要である。
 - ・ 学習したことを振り返り、様々な情報を総合して、社会的事象の意味（目的、働きなど）を考え、表現できるようにする指導が重要である。また、理解したことや学習の仕方を振り返り、学習成果や自分の成長を自覚できるようにしていくことも大切である。
- ④ よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てる指導の充実
- ・ 社会の一員として、社会的事象の意味を考えるようにする指導が引き続き必要である。
(例) □学習したことを基にして社会的事象の意義や現代社会の課題を見いだしたり、社会的事象の意味と自分たちのつながりを考えたりして、社会の一員として、社会的事象の意味について討論や話し合いができるよう指導を充実させていくこと。
 - ・ 社会的な事象への関心を高め、主体的、共同的に学ぼうとする態度を養う指導が重要である。
(例) □身近な題材を取り上げて体験的な活動を工夫していくことにより、社会的事象に自ら関わり主体的に学ぼうとする態度
□友達と関わり合いながら共同的に学ぼうとする態度
 - ・ 社会的な見方や考え方を養い、社会生活についての理解を図る指導が重要である。こうしたことを通じて、人々が相互に関わりを持ちながら生活を営んでいることを理解するとともに、自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献しようとする態度を育てるようになっていくことが重要である。

(3) 教師質問紙調査から

- ① 「問題やテーマを決めて討論する授業を行っていますか」「社会科の授業を展開する中で、他の立場から考えたり他の情報と比べたりして考えるような授業を行っていますか」という質問に対して、「行っている」と回答した割合が他の項目に比べて低いことから、問題などを決めて討論したり多面的・総合的に考えたりする指導について、課題が見られる。
- ② 「児童が予想に基づいて調べる計画を立てるように指導していますか」という質問に対して「そうしている」と回答した割合が低いことから、設定した学習問題を追究・解決するために見通しを持たせることに課題が見られる。